

第8回独立行政法人農林漁業信用基金漁業信用保険業務運営委員会 議事概要

1 日時及び場所

- (1) 日時 令和元年9月25日(水) 10時30分～12時02分
- (2) 場所 東京都千代田区内神田1-1-12 コープビル11階
独立行政法人農林漁業信用基金 第3・4会議室

2 出席者

(1) 運営委員

出資者：木村委員、金野委員、斉藤委員、佐竹委員、沢水委員
学識経験者：碓委員、亀田委員、竹田委員、山下委員

(出資者・学識経験者別 五十音順)

(2) 信用基金

今井理事長、石井副理事長、出倉総括理事、森島理事、伊佐理事

(3) オブザーバー(主務省)

清水水産庁漁政部水産経営課課長、原田財務省大臣官房政策金融課政策金融第2係長

3 提出議案

- (1) 漁業信用保険業務運営委員会運営規程及び漁業信用保険業務運営委員会運営細則の改正(案)について(審議事項)
- (2) 平成30年度の業務の実績に関する評価及び決算について(報告)
- (3) 農業信用保険業務、林業信用保証業務及び漁業信用保険業務に関する業務方法書の変更について(報告)
- (4) 中期目標を達成するための計画(中期計画)の変更について(報告)
- (5) 漁業信用保証・保険制度の利用促進について
- (6) その他

4 議事経過の概要及びその結果

信用基金から上記3(1)の議案について説明がなされ、原案どおり承認された。また、これ以外の議案についても、信用基金から説明がなされた。

運営委員からの主な質問等は以下のとおり。カッコ内は、これに対する信用基金の説明。

【質問等】

- (1) 漁業信用保険業務運営委員会運営規程及び漁業信用保険業務運営委員会運営細則の改正(案)について
 - 原案どおり承認。
- (2) 平成30年度の業務の実績に関する評価及び決算について
 - 資料2-1 関連「基金協会に対する貸付けの状況」中の「30年7月」は、誤りではないか。
(資料が誤っている。正しくは「30年度」であるので修正する。)
 - 保険価額残高が増加している一方で、保険料収入が減少しているのはなぜか。
(設定保険料率の低い漁業近代化資金の保険価額残高に占める割合が増加したため。)
- (3) 農業信用保険業務、林業信用保証業務及び漁業信用保険業務に関する業務方法書の変更について

- 農業信用保険業務において、従来の優遇保険料率を廃止し、よりきめ細かい保険料率区分となるよう変更する予定なのか。また、農業信用基金協会も呼応して保証料率を変更することになるのか。
 - (第4期中期目標における「信用リスクに応じた保証・保険料率の導入」に基づいた対応。保証料率は基金協会が決定するものであるが、主務省からの指示は「保証・保険料率」となっている。)

- (4) 中期目標を達成するための計画(中期計画)の変更について
 - 林業信用保証業務に、出資者に対する持分の払戻しが追加された経緯はなにか。
 - (出資者からの要望を踏まえ、信用基金法が改正されたことによるもの。)

- (5) 漁業信用保証・保険制度の利用促進について
 - 水産加工業者向け融資のうち、信用保証協会による保証はいくらくらいあるのか。
 - (その情報はほとんど入手できなかったが、資料に民間金融機関の事例を記載している。)

 - 信用保証協会による保証が基金協会による保証よりも優れている点は、①事前相談に対し2~3日で保証の内諾が得られ、さらに本審査で覆ることが少ないこと、②使い勝手のよい保証メニューがあること、③金融機関の職員向けの勉強会を開催していること、などが挙げられるのではないか。

 - 水産加工業者に対する保証について、制度的に信用保証協会と基金協会を対象者等の棲分けはないのか。
 - (棲分けはなされていない。しかし、基金協会による保証が信用保証協会による保証よりも利用が低位であるのは、制度的に基金協会の方が水産加工業者を保証対象とした時期が後であったことも一因と考えられる。)

 - これからの系統金融機関は、現場の漁業者を中心に考え、漁業者と連携して発展する可能性のある水産加工業者に対してアプローチすることにより新規融資の拡大を図るなど、ただ資金を融通するだけでなく、貸付先の事業をどう伸ばしていくかの提案をするようなサポート業務が重要となると認識。

 - 漁協が信漁連へ信用事業の譲渡を進めた結果、系統金融機関と浜との関わりが希薄になっていくことは当然想定されていたことだが、このような状況下にあって、保証・保険制度の利用促進について、検討委員会においてどのような検討結果が導かれるのか期待。

 - 国の養殖業に対する考え方は、健全な養殖業者を支援し、成長産業化させていくものと理解しているが、漁業信用保証保険制度は、国の施策との間でジレンマに陥ってしまうのではないか。

以上